



デバイスおよびネットワークの健全性とパフォーマンスのモニタ

- デバイスのヘルスとパフォーマンスのモニタ方法：モニタリング ポリシー (1 ページ)
- 基本的なデバイスヘルスモニタリングのセットアップ (3 ページ)
- 基本的なインターフェイスモニタリングの設定 (3 ページ)
- ダッシュボードを使用したネットワークとデバイスの状態の確認 (7 ページ)
- Cisco EPN Manager によるモニタリング対象のチェック (7 ページ)
- モニタリングポリシーのデバイス、ポーリング、しきい値、およびアラーム設定の確認 (11 ページ)
- モニタ対象を調整する (12 ページ)
- 過去のモニタリングポリシーデータ収集のステータスの確認 (15 ページ)
- ポリシーでモニタするデバイスセットの変更 (16 ページ)
- モニタリングポリシーのポーリングの変更 (16 ページ)
- モニタリングポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 (17 ページ)
- パフォーマンステストの実行 (18 ページ)
- レポートを使用したネットワークパフォーマンスのモニタ (25 ページ)

デバイスのヘルスとパフォーマンスのモニタ方法：モニタリングポリシー

モニタリングポリシーは、Cisco EPN Manager が以下を制御することによってどのようにネットワークをモニタするかを制御します。

- モニタ対象：Cisco EPN Manager がモニタするネットワークとデバイスの属性。
- モニタ頻度：パラメータをポーリングするレート。
- 問題を指摘するタイミング：ポーリングする属性の受け入れ可能な値。
- 問題の指摘方法：しきい値を超えた場合に Cisco EPN Manager がアラームを生成するかどうかとアラームの重大度。

モニタリングポリシーは、モニタ対象の制御は別として、レポート、ダッシュボード、および Cisco EPN Manager のその他の領域に表示可能なデータを決定する点で重要です。モニタリングポリシーは、デバイス上の変更を行いません。

デフォルトで、デバイスヘルスモニタリング（つまり、デバイスヘルスモニタリングポリシー）のみが有効になります。インターフェイスヘルスモニタリングは、大規模な展開でシステムパフォーマンスを保護するためにデフォルトでは有効になりません。デバイスヘルスモニタリングポリシーは、デバイスの Cisco NCS 2000 ファミリーと Cisco ONS ファミリーに適用されないことに注意してください。これらのデバイスタイプをモニタするには、[モニタリングポリシーリファレンス](#)に記載された光モニタリングポリシーを使用します。

次の手順は、モニタリングポリシーの設定方法を要約したものです。

1. モニタリングポリシー用のテンプレートとしてモニタリング**ポリシータイプ**を使用し、ポリシーにわかりやすい名前を付けます。ポリシータイプは、Cisco EPN Manager に同梱されており、Quality of Service、光 SFP、TDM/SONET などのさまざまなテクノロジーとサービスのモニタリングを簡単に開始できるようにします。完全なリストは、[モニタリングポリシーリファレンス](#)に記載されています。
2. ポリシーのポーリング頻度を調整するか、特定のパラメータのポーリングをすべて無効にします。
3. パラメータのしきい値を超えたときに Cisco EPN Manager が生成する Threshold Crossing Alarm (TCA) を指定します。一部の TCA はデフォルトで設定されます。これらを調整または無効にしたり、新しい TCA を設定したりできます。
4. ポリシーでモニタするデバイスを指定します。デバイスは、ポリシータイプに基づいてフィルタ処理されます。
5. ポリシーをアクティブにします。ポーリングされたデータが Web GUI のダッシュボード、レポート、[アラームおよびイベント (Alarms and Events)] テーブルなどの領域に表示されます。

モニタリングポリシーは、一定のポーリング間隔でネットワークとデバイス属性をポーリングすることでデータを収集します。次の理由により、ポリシーがポーリング間隔を超えて実行される場合があります。

1. 毎日のバックアップや毎日のインベントリ収集などのプロセスへのサーバの負荷
2. デバイスへの接続またはネットワーク遅延の問題
3. デバイスからのデータ収集には、設定されているポーリング間隔よりも時間がかかります。

ポーリング中のデバイスがある場合や、または以前のポリシーの実行によりキュー内にデバイスがある場合、ポリシーは現在のポーリング間隔でのこれらのデバイスのポーリングをスキップします。この動作により、特定のデバイスのモニタ対象データが最大10%失われる可能性があります。

モニタリングポリシーを表示して管理するには、[**モニタ (Monitor)**] > [**モニタリングツール (Monitoring Tools)**] > [**モニタリングポリシー (Monitoring Policies)**] を選択します。

ナビゲーション	説明
自動監視 (Automonitoring)	Cisco EPN Manager でデフォルトで有効になるポリシーが一覧表示されます。デバイスヘルスモニタリングポリシーだけがデフォルトで有効になります。このポリシーの設定を調整できます。
マイポリシー (My Policies)	自分が作成したポリシーがここに表示されます。[マイポリシー (My Policies)] からポリシーを選択すると、そのポリシーの詳細を表示できます。

基本的なデバイスヘルスモニタリングのセットアップ

デバイスヘルスモニタリングポリシーは、デフォルトで有効になっています。シスコデバイスとサードパーティデバイスの両方をモニタします。シスコデバイスの場合、デバイスヘルスモニタリングは管理対象デバイスでCPU使用率、メモリプールの使用率、環境温度、デバイスの可用性をチェックします。サードパーティデバイスの場合、デバイスヘルスモニタリングは管理対象デバイスの可用性のみをチェックします。このポリシーに、使用率や温度のしきい値を指定します。もしこのしきい値を超えた場合、GUIクライアントに表示されるアラームをトリガーします。

このポリシーの現在の設定を表示するには、[モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)] の順に選択し、左側のリストから [自動モニタ (Automonitoring)] を選択します。また、ポーリング頻度やさまざまなパラメータのしきい値を調整できます。ポーリング頻度やしきい値を調整するには、GUIクライアントに表示されるドロップダウンリストを使用します。

また、特定のデバイス（たとえば、特定のタイプのデバイスや特定の地理的場所に位置するデバイスなど）をモニタするデバイスヘルスモニタリングポリシーを作成することもできます。その実行方法については、[モニタ対象を調整する \(12 ページ\)](#) を参照してください。

基本的なインターフェイスモニタリングの設定

デフォルトでは、インターフェイスはモニタされません。これにより、多数のインターフェイスがあるネットワークのシステムパフォーマンスが保護されます。

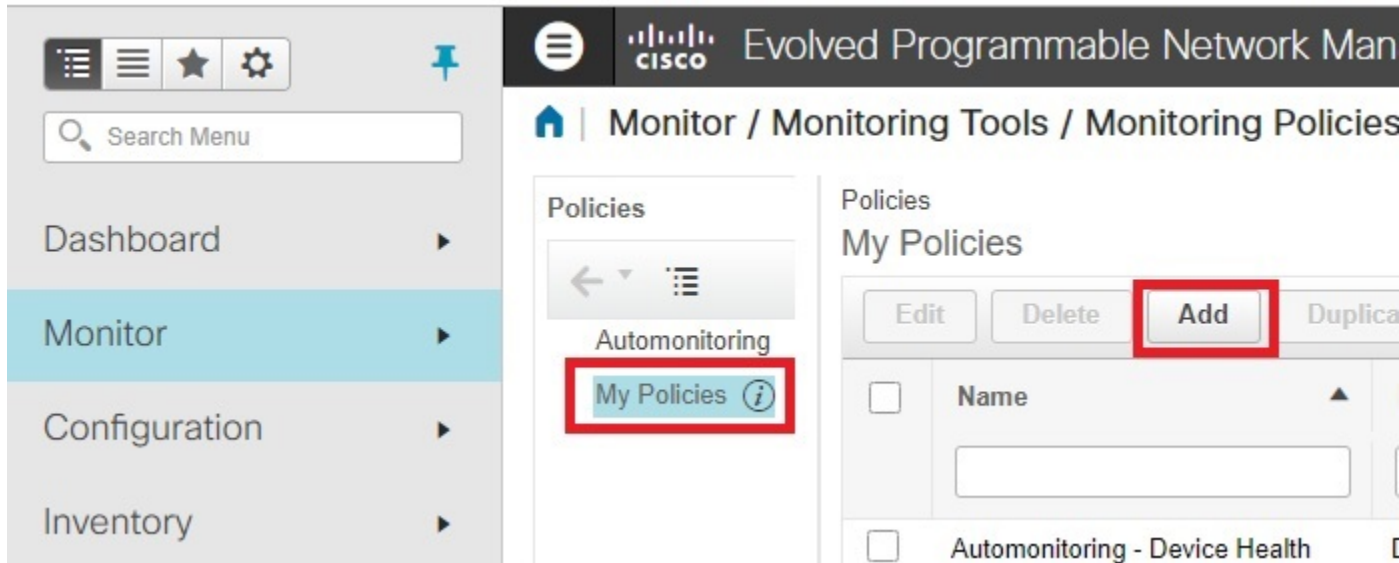
基本的なインターフェイスモニタリングを設定するには、次の手順を使用します。

インターフェイスモニタリングを設定して有効するには、次の手順に従います。

ステップ 1 [モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)] の順に選択し、左側のリストから [マイポリシー (My Policies)] を選択します。

ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックして、新しいポリシーを作成します。

図 1: モニタリング ポリシーの追加



ステップ 3 汎用インターフェイスモニタリングの場合は[インターフェイスヘルス (Interface Health)]を選択します。光デバイスをモニタリングする場合は、[光15分 (Optical 15 Mins)]またはその他の光ポリシー ([モニタリングポリシー リファレンス](#)を参照) を選択します。

ポリシーを選択すると、Cisco EPN Manager によりこのウィンドウにポリシー設定が読み込まれます。

ステップ 4 わかりやすい名前と説明を入力します。

ステップ 5 [デバイスの選択 (Device Selection)] ドロップダウン リストから適切なオプション ボタンをクリックし、モニタするデバイスまたはデバイス グループを選択します。インターフェイスヘルスのモニタリングポリシーを選択した場合は、ポートグループも選択できます。

Cisco EPN Manager では、ステップ 3 で選択したポリシーに該当するデバイスまたはポートのみが一覧表示されます。

次の点に注意してください。

- ポーリングとしきい値にデフォルト設定を使用するには、ステップ 8 に進みます。
- 現在のリリースの制約により Cisco EPN Manager では、インターフェイスヘルスのモニタリングポリシーは、巡回冗長検査 (CRC) エラーデータについて、選択したポートグループに関連付けられているインターフェイスだけでなく、ネットワーク内のすべてのインターフェイスをポーリングします。CRC エラーのデータを確認するときは、常にこのことに注意してください。

ステップ 6 インターフェイスのポーリング頻度を調整するには、[ポーリング頻度 (Polling Frequency)] ドロップダウン リストから値を選択します。異なるパラメータのポーリング頻度を設定できるポリシーと、すべてのパラメータに 1 つのポーリング頻度だけが適用されるポリシーがあります。

Cisco ASR 9000 インターフェイスをモニタするポリシーの例を次に示します。このポリシーには[インターフェイスヘルス (Interface Health)] ポリシータイプが使用されており、すべてのパラメータが同一間隔でポーリングされます。

Policies / My Policies
ASR9K-IF-Health

*Device Selection

* Name ASR9K-IF-Health

Author root

Description

Contact

Feature Category Interface Health

Status Active

Parameters and Thresholds

	Parameter	Polling Frequency
▶	Statistics	15 min <input type="text" value="▼"/>
▶	CRC	No Polling <input type="text" value="▼"/>

Save and Activate

Cancel

また、Cisco NCS 2000 インターフェイスをモニタするポリシーの例を次に示します。このポリシーでは [光 15分 (Optical 15 mins)] ポリシータイプが使用され、インターフェイスタイプごとに固有のポーリング間隔が設定されています。間隔を編集するには、その間隔をダブルクリックします。

Policy Types / **Optical 15 mins**

* Device Selection ▼

* Name NCS-2000-SanJose

Author root

Description Template for collecting
Optical Statistics (15 mins)

Contact

Feature Category Optical 15 mins

Parameters and Thresholds

Parameter	Polling Fre...
Physical	15 min
OTN	15 min ▼
Ethernet	15 min
SonetSdh	15 min
Dwdm Infrastructure	15 min

Save | Cancel

Save and Activate ▼

Cancel

ステップ7 ポリシーで TCA カスタマイズがサポートされている場合は、しきい値を調整できます。 [モニタリング ポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ8 次をクリックします。

- モニタリングを今すぐ開始する場合は、[保存してアクティブにする (Save and Activate)] をクリックします。
- ポリシーを保存して後でアクティブ化する場合は [保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

ダッシュボードを使用したネットワークとデバイスの状態の確認

Cisco EPN Manager は、デバイスとネットワークをモニタするためのさまざまなダッシュボードを提供します。ダッシュボードが提供できる内容の例を次に示します。

- ネットワーク全体のリアルタイムのステータス情報（到達不能なデバイス、ダウンしているインターフェイス、最新のアラームなど）。
- 履歴情報の要約（最も頻繁に発生するアラーム、メモリと CPU の使用率が最も高いデバイスとインターフェイスなど）。
- デバイス固有の情報（デバイスの可用性履歴、使用率、インターフェイス統計情報、アラームなど）。
- テクノロジー固有の情報（キャリア イーサネット サービスなど）。

ダッシュボードの詳細については、[ダッシュボードのセットアップと使用](#) を参照してください。

Cisco EPN Manager によるモニタリング対象のチェック

このトピックでは、次の情報を取得する方法について説明します。

- 有効化されているポリシー、そのステータス、およびその履歴。
- Cisco EPN Manager がポーリングしている特定のパラメータ、ポーリング頻度、およびそのしきい値超過アラーム（TCA）の設定。
- ポリシーの作成者、およびポリシーのベースとして使用されたポリシータイプ。

ポリシーによるポーリング対象、ポリシーの前の実行時間、およびポリシーが現在アクティブかどうかを確認するには、**[モニタ (Monitor)] > [モニタリングツール (Monitoring Tools)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)]** を選択してから、**[マイポリシー (My Policies)]** を選択します。Cisco EPN Manager に、作成したモニタリングポリシー、またはアクセス権のあるモニタリングポリシーが、次の情報とともに一覧表示されます。

ポリシーのフィールド	説明
名前	ポリシー名（ポリシーの作成者が指定します）。ポリシーの作成者を確認するには、この表の後にある手順を参照してください。
[説明 (Description)]	ポリシーの説明（ポリシーの作成者が指定します）。

ポリシーのフィールド	説明
[タイプ (Type)]	このポリシーを作成するときに使用されたテンプレート (ポリシータイプ)。ポリシータイプの詳細については、 デバイスのヘルスとパフォーマンスのモニタ方法：モニタリングポリシー (1 ページ) を参照してください。
[ステータス (Status)]	[アクティブ (Active)] または [非アクティブ (Inactive)]
[しきい値 (Threshold)]	ポリシーがパラメータしきい値をモニタし、TCA を生成するかどうか。「はい (Yes) 」が表示される場合、この表の後にある手順を使用して TCA 設定を確認できます。
[有効化履歴 (Activation History)]	<p>アクティブなモニタリングポリシー：ポリシーが有効化された回数を表示し、次の情報が含まれる [有効化履歴 (Activation History)] ポップアップ ウィンドウへのハイパーリンクを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーが有効化された時間。 • 各ポリシー実行でポーリングされたデバイス。非常に長い一覧の場合は、マウスカーソルを一覧の [有効化対象 (Activated for)] 列にホバーし、ポップアップ ウィンドウを起動します。 <p>非アクティブなモニタリングポリシー：[使用できません (Not Available)] が表示されます。</p>

ポリシーのフィールド	説明
[収集ステータス (Collection Status)]	<p>アクティブなモニタリングポリシー：次の情報が含まれる [収集ステータス (Collection Status)]ポップアップウィンドウへのハイパーリンクを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーによってポーリングされた各デバイスのデバイス名、IP アドレス、および可用性状態。 • 各ポリシー実行でポーリングされたパラメータ。非常に長い一覧の場合は、マウスカーソルを一覧の [パラメータ (Parameters)]列にホバーし、ポップアップウィンドウを起動します。 <p>非アクティブなモニタリングポリシー：[使用できません (Not Available)]が表示されます。</p>

ポーリング頻度と TCA の詳細を表示するには、[ポリシー (My Policies)]で、左側の一覧からポリシーを選択します。ポリシータイプに応じて次の情報が表示されます。



(注) [オプティカル1日 (Optical 1 day)]、[オプティカル15分 (Optical 15 mins)]、および[オプティカル30秒 (Optical 30 secs)]のパラメータを表示するには、[モニタリングポリシーリファレンス](#)を参照してください。

ポリシーのフィールド	説明
全般情報 (General Information)	名前、説明、作成者、ステータス、ポリシータイプ (機能カテゴリ)。ポリシータイプの詳細については、 デバイスのヘルスとパフォーマンスのモニタ方法：モニタリングポリシー (1 ページ) を参照してください。
[デバイスの選択 (Device Selection)]	ポリシーがモニタするデバイス。
[ポーリング頻度 (Polling Frequency)]	Cisco EPN Manager がデバイスパラメータをポーリングする頻度。

ポリシーのフィールド	説明
[パラメータとしきい値 (Parameters and Thresholds)]	ポーリングされたパラメータとそのTCA設定 (ある場合)。TCA設定を表示するには、パラメータ名の横にある矢印をクリックします。さまざまなポリシータイプによってポーリングされるパラメータを表示する方法については、 モニタリングポリシーによりポーリングされるパラメータとカウンタの確認 (10ページ) を参照してください。

モニタリングポリシーによりポーリングされるパラメータとカウンタの確認

[Cisco EPN Manager によるモニタリング対象のチェック \(7ページ\)](#) 現在アクティブなモニタリングポリシーを確認する方法を説明します。ポリシーでポーリングされるパラメータを確認するには、次の手順に従います。



(注) [オプティカル1日 (Optical 1 day)]、[オプティカル15分 (Optical 15 mins)]、および[オプティカル30秒 (Optical 30 secs)]のパラメータを表示するには、[モニタリングポリシーリファレンス](#)を参照してください。

この手順では、次のパラメータを確認できます。

- 既存のポリシーにより (ポリシーがアクティブ/非アクティブであるかどうかに関係なく) ポーリングされるパラメータ。
- 1つのポリシータイプで使用されるパラメータ。ポリシーの作成前に、新しいポリシーでポーリングされる内容を確認する場合に便利です。

ステップ1 [モニタ (Monitor)]>[モニタリング ツール (Monitoring Tools)]>[モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)]を選択し、[マイ ポリシー (My Policies)]を選択します。Web GUI に、既存のアクティブなモニタリングポリシーと非アクティブなモニタリングポリシーのリストが表示されます。

ステップ2 既存のポリシーで使用されるパラメータを確認するには：

- 最後にポーリングされたパラメータを確認するには、右側のウィンドウでポリシーを見つけ、[収集ステータス (Collection Status)]列の[詳細 (Details)]をクリックします。[収集データ (Collection Data)]ダイアログボックスの[パラメータ (Parameter)]列のテキストにマウスカーソルを合わせます。ポーリングされたパラメータのリストが表示されます。
- パラメータとそのポーリング設定を確認するには、左側のナビゲーションエリアで[マイ ポリシー (My Policies)]を展開し、確認するポリシーを選択します。右側のウィンドウに、パラメータとそのポーリング設定が表示されます。

ステップ3 特定のポリシー タイプで使用されるパラメータを確認するには：

- a) [編集 (Edit)]をクリックします。左側のナビゲーション エリアに、サポートされるポリシー タイプのリストが表示されます。
- b) ポリシータイプを選択します。右側のウィンドウに、そのポリシーでポーリングされるパラメータと、デフォルトのポーリング設定およびTCA設定が表示されます。(モニタリングポリシーの作成時にこれらの設定をカスタマイズできます。)

[ポリシー (Policies)]ペインのポップアップウィンドウ

[モニタリングポリシー (Monitoring Policies)]ページの[ポリシー (Policies)]ペインで、対応するポリシーまたはポリシー フォルダの概要情報とアクション リンクを提供するポップアップウィンドウを開くことができます。ポップアップウィンドウを開くには、該当する [i] (情報) アイコン上にカーソルを移動します。

- ポリシーのポップアップウィンドウを開くと、そのポリシーのタイプ、ステータス、最終更新時のタイムスタンプなどの情報が表示されます。[アクション (Actions)]領域のリンクをクリックして、ポリシーを編集、削除、または複製できます。
- ポリシー フォルダのポップアップウィンドウを開くと、フォルダの名前とそこに含まれるポリシーの数が表示されます。[アクション (Actions)]領域のリンクをクリックして、フォルダを削除したり、新しいサブフォルダを追加したりできます。フォルダを追加および削除できるのは、[マイポリシー (My Policies)]内のみです。また、ユーザが作成したフォルダが配置されている場合は、新しいポリシーの作成時に必ず宛先フォルダを指定する必要があります。

モニタリングポリシーのデバイス、ポーリング、しきい値、およびアラーム設定の確認

モニタリングポリシーのしきい値とアラーム設定を確認するには、次の手順を実行します。

ステップ1 [モニタ (Monitor)]>[モニタリング ツール (Monitoring Tools)]>[モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)]を選択してから、[マイ ポリシー (My Policies)]を選択します。

ステップ2 モニタリング ポリシーを選択し、[編集 (Edit)]をクリックしてポリシーの詳細を開きます。

ステップ3 ポリシーで監視するデバイスを確認するには、[デバイスの選択 (Device Selection)]ドロップダウン リストをクリックします。監視されているデバイスは、チェックマークで示されます。デバイスを追加または削除するには、[ポリシーでモニタするデバイスセットの変更 \(16 ページ\)](#)を参照してください。

ステップ4 ポリシーで使用されているポーリング間隔を確認するには、[ポーリング間隔 (Polling Interval)]の設定をクリックします。パラメータごとのポーリングについては、個別のパラメータを展開して設定を確認します。ポーリングの設定を調整するには、[モニタリングポリシーのポーリングの変更 \(16 ページ\)](#)を参照してください。

光ポリシー ポーリング周波数は変更できません。無効にすることのみが可能です。

ステップ 5 ポリシーで使用されているしきい値とアラームの設定を確認するには、[ポーリングとしきい値 (Polling and Thresholds) 領域のパラメータを展開します。しきい値とアラームの設定を変更するには、[モニタリングポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

光ポリシーのしきい値はカスタマイズできません。

モニタ対象を調整する

Cisco EPN Manager のモニタ対象を調整するには、次の表のガイダンスに従って、必要な最良の方法を見つけてください。

条件 :		参照先 :
Cisco EPN Manager が必要なデータを収集している	ポーリング頻度を変更する必要がある	モニタリングポリシーのポーリングの変更 (16 ページ)
	アラーム動作を調整する必要がある	モニタリングポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 (17 ページ)
	モニタするデバイスを調整する必要がある	ポリシーでモニタするデバイスセットの変更 (16 ページ)
Cisco EPN Manager が必要なデータを収集していない	同様のモニタリングポリシーがすでに存在する	既存のポリシーベースの新規モニタリングポリシーの作成 (13 ページ)
	同様のモニタリングポリシーは存在しないが、ポリシータイプの1つにモニタするパラメータが含まれている	事前設定されたポリシータイプを使用した新規モニタリングポリシーの作成 (13 ページ)
	同様のモニタリングポリシーは存在せず、どのポリシータイプにもモニタするパラメータが含まれていない	サポートされないパラメータとサードパーティデバイスを対象としたモニタリングポリシーの作成 (14 ページ)
	サポートされていないデバイスまたはサードパーティデバイスをモニタする必要がある	

既存のポリシーベースの新規モニタリングポリシーの作成

- ステップ1** 現在のモニタ対象を調べて、新しいポリシーを作成する必要があるかどうかを確認します。[Cisco EPN Managerによるモニタリング対象のチェック \(7ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ2** 既存のポリシーの複製を作成します。
- [**モニタ (Monitor)**] > [**モニタリングツール (Monitoring Tools)**] > [**モニタリングポリシー (Monitoring Policies)**] の順に選択し、左側にあるリストで [**マイポリシー (My Policies)**] をクリックします。
 - 複製するポリシーを見つけます。
 - ポリシーを選択し、[複製 (Duplicate)] をクリックします。
 - [複製ポリシーの作成 (Duplicate Policy Creation)] ダイアログで、親フォルダを選択し、ポリシーの名前と説明を入力して [OK] をクリックします。
- ステップ3** 複製したポリシーに変更を加えます。
- [**マイポリシー (My Policies)**] でポリシーを見つけます。
 - ポリシーを選択して、[編集 (Edit)] をクリックします。
 - 必要に応じて、設定を変更します。参照先：
 - [ポリシーでモニタするデバイスセットの変更 \(16ページ\)](#)
 - [モニタリングポリシーのポーリングの変更 \(16ページ\)](#)
 - [モニタリングポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 \(17ページ\)](#)
- ステップ4** 次をクリックします。
- ポリシーを保存し、選択したデバイスで即座にアクティブ化する場合には、[保存してアクティブにする (Save and Activate)]。
 - ポリシーを保存して後でアクティブ化する場合は [保存して閉じる (Save and Close)]。

事前設定されたポリシータイプを使用した新規モニタリングポリシーの作成

- ステップ1** 現在モニタされている対象を確認します。[Cisco EPN Managerによるモニタリング対象のチェック \(7ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ2** [**モニタ (Monitor)**] > [**モニタリングツール (Monitoring Tools)**] > [**モニタリングポリシー (Monitoring Policies)**] を選択し、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ3** [**ポリシータイプ (Policy Types)**] メニューから、使用するポリシータイプテンプレートを選択します。
- ステップ4** 新しいポリシーを設定します。

- a) [デバイスの選択 (Device Selection)] ドロップダウンリストから、デバイス、デバイス グループ、またはポートグループを選択します。(すべてのモニタリングタイプをポートグループに適用できるわけではありません。)
- b) 名前と連絡先を入力し、説明を編集します。
- c) [パラメータとしきい値 (Parameters and Thresholds)] で、ポーリング設定、パラメータ値、およびアラームの条件を設定します。[モニタリング ポリシーのポーリングの変更 \(16 ページ\)](#) および [モニタリング ポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更 \(17 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 5 次をクリックします。

- ポリシーを保存し、選択したデバイスで即座にアクティブ化するには、[保存してアクティブにする (Save and Activate)]。
- ポリシーを保存して後でアクティブ化する場合は [保存して閉じる (Save and Close)]。

サポートされないパラメータとサードパーティデバイスを対象としたモニタリング ポリシーの作成

サードパーティまたはシスコのデバイスおよびデバイスグループをモニタするためのカスタム MIB ポーリング ポリシーを設計できます。また、Cisco EPN Manager がデフォルトポリシーを提供していないデバイスの機能をモニタするためのカスタム MIB ポリシーを作成することもできます。この機能を使用して、以下の操作を実行することができます。

- デバイス タイプの SNMP MIB をアップロードし、ポーリングするデバイスと属性およびポーリング頻度を選択する。
- 単一の MIB 定義ファイルまたは依存関係がある MIB のグループを ZIP ファイルとしてアップロードする。
- 折れ線グラフまたは表として結果を表示する。

この機能により、同じデバイスおよび属性に対するポーリングを容易に繰り返すことができ、SNMP を使用してシスコ デバイスをポーリングする方法をカスタマイズできます。

最大 25 のカスタム MIB ポーリング ポリシーを作成できます。

カスタム MIB ポーリング ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [モニタ (Monitor)] > [モニタリング ツール (Monitoring Tools)] > [モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)] を選択し、[マイ ポリシー (My Policies)] を選択し、[追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 2 [ポリシー タイプ (Policy Types)] メニューから、[カスタム MIB ポーリング (Custom MIB Polling)] を選択します。

ステップ 3 ポリシーの名前を入力します。

ステップ 4 [MIB の選択 (MIB Selection)] タブで、ポーリング頻度を指定し、MIB 情報を入力します。

- Cisco EPN Manager でモニタする MIB が [MIB (MIBs)] ドロップダウンリストに表示されない場合は、URL <http://tools.cisco.com/Support/SNMP/do/BrowseMIB.do?local=en&step=2> からモニタする MIB をダウンロードします。
- MIB をアップロードするには、ZIP ファイルをアップロードする場合にのみファイル名の拡張子を指定します。
- ZIP ファイルをアップロードする場合は、すべての依存 MIB ファイルが ZIP に含まれているか、またはすでにシステムに存在することを確認してください。
- ファイルをアップロードし、MIB 定義に同じ名前が付いていることを確認します。ZIP ファイルをアップロードする場合、そのファイル名を好きなように指定できますが、その中に含まれている MIB ファイルも同じ規則に従う必要があります (例: MyMibs.zip は、ZIP 内のすべての MIB ファイルがその MIB 名に一致していれば許容可能です)。

ステップ 5 デバイスで作成したポリシーをアクティブ化する前にテストするには、[テスト (Test)] タブをクリックして、新しいポリシーをテストするデバイスを選択します。

ステップ 6 指定したデバイスでポリシーを即座にアクティブ化するには、[保存してアクティブにする (Save and Activate)] をクリックします。

ステップ 7 MIB ポーリングデータを表示するには、作成したポリシーの名前を使用して [パフォーマンス (Performance)] ダッシュボードの汎用ダッシュレットを作成します。

(注) Cisco ASR デバイスの SNMP ポーリングの日付を表示するには、CPU 使用率の場合は `show platform hardware qfp active datapath utilization | inc Processing` コマンドを、メモリ使用率の場合は `show platform hardware qfp active infrastructure exmем statistics | sec DRAM` コマンドを使用する必要があります。

過去のモニタリングポリシーデータ収集のステータスの確認

モニタリングポリシーの過去のデータ収集を確認するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [モニタ (Monitor)] > [モニタリング ツール (Monitoring Tools)] > [モニタリングポリシー (Monitoring Policies)] を選択し、[マイポリシー (My Policies)] をクリックします。

ステップ 2 ポリシーを見つけ、[収集ステータス (Collection Status)] の下にある [詳細 (Details)] をクリックして [収集データ (Collection Data)] ダイアログを開きます。デバイスに対してポーリングを行ったパラメータを確認するには、[パラメータ (Parameter)] 列のテキストの上にマウスを重ねます。

ポリシーでモニタするデバイス セットの変更

モニタリング情報の収集頻度（ポーリング間隔）をカスタマイズできます。すべてのポリシーにこれらの設定がすべて含まれているわけではありません。たとえば、統計情報だけを収集するポリシーには、しきい値やアラームが関連付けられていない可能性があります。

ステップ 1 **Monitor > Monitoring Policies > My Policies** を選択してから、編集するポリシーを選択します。

ステップ 2 編集するポリシーを確認して **[Edit]** をクリックします。

ステップ 3 **[デバイスの選択 (Device Selection)]** ドロップダウンリストをクリックします。

ステップ 4 必要に応じてデバイスを選択および選択解除します。

ステップ 5 **[Save and Activate]** をクリックしてポリシーを保存し、選択したデバイスですぐにアクティブ化します。

モニタリングポリシーのポーリングの変更

モニタリング情報の収集頻度（ポーリング間隔）をカスタマイズできます。すべてのポリシーにこれらの設定がすべて含まれているわけではありません。たとえば、統計情報だけを収集するポリシーには、しきい値やアラームが関連付けられていない可能性があります。

ステップ 1 **[モニタ (Monitor)] > [モニタリング ツール (Monitoring Tools)] > [モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)]** を選択し、**[マイ ポリシー (My Policies)]** をクリックします。

ステップ 2 編集するポリシーを選択して、**[編集 (Edit)]** をクリックします。

ステップ 3 ポーリング頻度を調整します。ポーリングの調整方法は、モニタリングポリシーのタイプに応じて異なります。

- すべての属性に1つのポーリング頻度を適用するポリシー：ポーリング頻度を調整するには、**[ポーリング頻度 (Polling Frequency)]** ドロップダウンリストから新しい間隔を選択します。ポーリングを無効にするには、ページ下部にある **[保存して非アクティブ化 (Save and Deactivate)]** をクリックしてポリシーを非アクティブ化します。
- 属性ごとにポーリング頻度を設定するポリシー：特定の属性のポーリング設定を変更するには、属性の行をダブルクリックして設定を変更します。**[ポーリングなし (No Polling)]** を選択すると、その属性のポーリングだけが無効になります。

ポリシーですべての属性のポーリングを無効にするには、ページ下部にある **[保存して非アクティブにする (Save and Deactivate)]** をクリックしてポリシーを非アクティブにします。次の手順に進まないでください。

ステップ 4 ポリシーを保存して選択したデバイスで即座にアクティブ化する場合は[保存してアクティブにする (Save and Activate)]をクリックします。

モニタリングポリシーのしきい値およびアラーム動作の変更

問題を示すしきい値と、問題が検出された場合に Cisco EPN Manager で情報イベントまたは（任意の重大度の）アラームを生成するかどうかをカスタマイズできます。すべてのポリシーにこれらの設定がすべて含まれているわけではありません。たとえば、統計情報だけを収集するポリシーには、しきい値やアラームが関連付けられていない可能性があります。

ステップ 1 [モニタ (Monitor)]>[モニタリング ツール (Monitoring Tools)]>[モニタリング ポリシー (Monitoring Policies)]を選択し、[マイ ポリシー (My Policies)]を選択します。

ステップ 2 編集するポリシーを選択して、[編集 (Edit)]をクリックします。

ステップ 3 変更するパラメータを検索します。パラメータを検索するには、[パラメータ (Parameters)]テキストボックスに文字列を入力します。

ステップ 4 パラメータを展開します。既存の条件を変更するか、新しい条件を追加することができます。次の図では、Cisco ASR 9000 デバイスの CPU 使用率のしきい値とアラームが指定されています。

Policy Types / **Device Health**

* Device Selection

* Name Author

Description Contact

Feature Category Device Health

Parameters and Thresholds

Show

Parameter	Polling Fr...	Condition	Reaction
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
▼ CPU Utilization	5 min		
<ul style="list-style-type: none"> Greater Than 90 Percent(%) 3 times Greater Than 90 Percent(%) 6 times Greater Than 90 Percent(%) 9 times 		<ul style="list-style-type: none"> ALARM MINOR ALARM MAJOR ALARM CRITICAL 	<ul style="list-style-type: none"> - + - + - +
<ul style="list-style-type: none"> Greater Than 	<input type="text" value="90"/>	Percent(%)	<input type="text" value="9"/> times

(注) 次の表に示すように、各メトリックに対して設定できるしきい値は合計 50 個までです。

ステップ 5 操作が完了したら、[保存してアクティブにする (Save and Activate)] をクリックして、選択したデバイスにポリシーを保存して即座にアクティブにします。

パフォーマンステストの実行

パフォーマンステストを実行すると、Cisco EPN Manager がリアルタイムでネットワーク デバイスに接続して情報を取得します。一方、レポートにはデータベースに保存された履歴データが使用されます。詳細については、実行するテストの種類に応じて次のトピックを参照してください。

- [EVC の Y.1564 に基づくパフォーマンステスト](#)
- [EVC の Y1731 に基づくパフォーマンステスト](#)
- [光回線のパフォーマンステスト](#)
- [回線エミュレーションサービスのパフォーマンステスト](#)

Cisco EPN Manager は、OTS 光リンクでの OTDR パフォーマンステストの実行もサポートしています。詳細については、[OTS リンクでの OTDR パフォーマンステストの実行 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

OTS リンクでの OTDR パフォーマンステストの実行

光タイムドメイン反射率計 (OTDR) テストは、光ファイバの長さに応じた減衰のグラフィカルなシグネチャであり、リンクコンポーネント (ケーブル、コネクタ、スプライス) の性能に関する分析情報を提供します。OTS リンク関連の問題 (デバイスやスプライスの劣化、ケーブルの曲げなど) のリモート診断が可能です。

OTDR テストは、TNC カードの OTDR ポートに接続されている OTS リンクでのみ開始できます。



- (注) NCS1001 デバイスの場合、デフォルトの xml 設定がデバイス設定によって異なる場合は、`/opt/CSColumos/conf/ncs1k-otdr-ports.xml` にデバイス固有の設定を含む .xml ファイルを追加する必要があります。これにより、EDFA 回線ポートに関連付けられた OTS リンクと OTDR ポート間のアソシエーション/接続が提供されます。

次の表に示すように、OTDR 機能の一部は特定のユーザグループに制限されています。

ユーザ グループ		OTDR スキャン 結果の表示	OTDR スキャン の実行と分析	OTDR スキャン の設定	ベースライ ンの設定
Web GUI	Root	対応	対応	対応	対応
	スーパーユーザ	対応	対応	対応	対応
	Admin	対応	対応	対応	対応
	Config Managers	対応	対応	対応	対応
	System Monitoring	対応	対応	×	対応

OTDR スキャンには、リンク テーブルの [アクション (Actions)] メニューまたは [インターフェイス360 (Interface 360)] ビューからアクセスできます。[OTDRスキャン (OTDR Scan)] メニューオプションは、OTDR がサポートされているリンクまたはインターフェイスでのみ使用できます。

OTDR スキャンを実行する手順は次のとおりです。

ステップ 1 次のいずれかの方法で OTDR スキャン ウィンドウにアクセスします。

- [インベントリ (Inventory)] > [その他 (Other)] > [リンク (Links)] を選択します。目的の OTS リンクを選択し、[アクション (Actions)] > [OTDRスキャン (OTDR Scan)] を選択します。
- テストするリンクのどちらかの側の [インターフェイス360 (Interface 360)] ビューを開き、[アクション (Actions)] > [OTDRスキャン (OTDR Scan)] を選択します。

[OTDRスキャン (OTDR Scan)] ウィンドウが開いて、このリンクの最後のスキャン結果が表示されます。

ステップ 2 [設定 (Configure)] タブで、リンクの両側の OTDR 設定を確認し、必要に応じて変更します。OTDR ポート値の設定 (21 ページ) を参照してください。

ステップ 3 [Scans] タブで、[Change Scan Direction)] の横にある矢印をクリックして領域を展開し、方向設定を表示します。[スキャン方向 (Scan Direction)] 領域に、選択した OTS リンクの A 側と Z 側が表示され、テストを実行する方向を選択できます。

ステップ 4 [スキャン方向 (Scan Direction)] で、関連する矢印をクリックしてテストの方向を選択します。各方向矢印の上には、その方向の最後のスキャンが実行された時期を示す情報が表示されます。

テーブルには、選択した方向のすべてのシステム、ベースライン、およびインポートされたスキャンが表示されます。次の操作を実行できます。

- 使用可能な場合は、マグアイコンをクリックして最新のスキャンをダウンロードするか (使用可能な場合)、または 1 つまたは複数のスキャンを選択し、円矢印をクリックして複数のスキャンをダウンロードします。

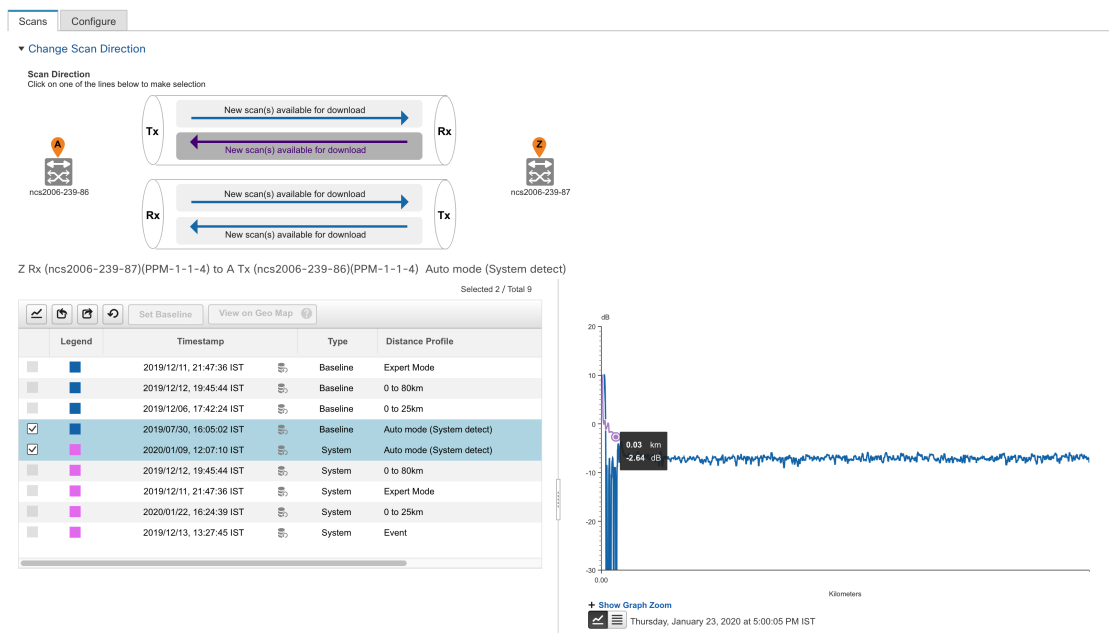
(注) デバイスから EPNM にスキャン結果を表示/ダウンロードするには、TFTP を有効にする必要があります。

ステップ 5 テーブルから目的のスキャンを選択し、[Start new scan] アイコンをクリックします。

OTS リンクでの OTDR パフォーマンス テストの実行

- テーブルでスキャンが選択されていない場合は、自動モード用に新しいスキャンが作成されます。同じ距離プロファイルから最大2つのスキャンを選択してスキャンを実行できます。
- スキャンが完了すると、スキャン結果が、指定した距離プロファイル (km) 上の電力測定値 (dB) とともにグラフィカル表示されます。ベースライングラフを表示して、最後のスキャン読み取り値と比較することもできます。
- [i] アイコンをクリックすると、[Events] タブに、距離 (km)、ベースライン読み取り値 (dB)、および以前のスキャン読み取り値 (dB) を含むテーブルが表示されます。ベースラインとスキャン結果の比較である相対/絶対しきい値が表示されます。[タイプ (Type)] フィールドを使用して、イベントの詳細の[反射 (Reflection)]、[挿入損失 (Insertion Loss)]、または[反射と損失 (Reflection with Loss)] をフィルタリングします。イベントを分析するには、テーブルでイベントを選択して[イベントの分析 (Analyze Event)] をクリックします。これにより、イベントの特定の場所でスキャンが再実行されます。
 - (注)
 - しきい値がデバイスに設定された値を超えると、アラームが発生します。[Reflection]、[Insertion Loss]、および [Reflection with Loss] の情報は、[Type] フィールドのアイコンを使用すると再表示されます。
 - 繰り返しおよびしきい値は、NCS1001 デバイスではサポートされません。
 - NCS2K デバイスの場合、新しいスキャンを開始するときに、[高速 (Fast)] スキャンと [ハイブリッド (Hybrid)] スキャンのいずれかを選択できます。このオプションは、NCS1001 デバイスでは使用できません。
- Geo マップのコンテキスト内にスキャン結果を表示するには、[Geo マップで表示 (View on Geo Map)] をクリックします。Geo マップでの OTDR スキャン結果の表示 (24 ページ) を参照してください

図 2: [スキャンイベントの詳細 (Scan Event Details)] の表示



- ステップ6** (任意) [ベースラインの設定 (Set Baseline)] をクリックして、OTDR テストのベースラインを設定します。ベースラインを設定すると、最後のスキャン結果と比較できます。
- [ベースラインの設定 (Set Baseline)] は NCS1001 デバイスではサポートされていません。
- ステップ7** スキャン結果をエクスポートするには、[OTDR スキャン結果のエクスポート \(23 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ8** スキャンをインポートするには、[OTDR スキャンのインポート \(23 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ9** 定義した一定の間隔で OTDR スキャンを実行するようにスケジューリングするには、[OTDR スキャンの繰り返しのプロビジョニング \(22 ページ\)](#) を参照してください。

OTDR ポート値の設定

OTDR スキャンでは、各セクターの TNCS カードのデフォルト設定を使用するか、必要に応じて設定を変更できます。

- ステップ1** 「OTS リンクでの OTDR パフォーマンス テストの実行」トピックの説明に従って、OTDR スキャン ページにアクセスします。
- ステップ2** [設定 (Configure)] タブの [デバイス (Device)] ドロップダウンリストからデバイスを選択します。次の列にデフォルト値を持つすべてのセクターがテーブルに一覧表示されます。
- スキャンステータス (Scan Status) : スキャンの累積ステータス
 - 損失感度 (dB) (Loss Sensitivity (dB))
 - 反射感度 (dB) (Reflection Sensitivity (dB))
 - 始点 (km) (Start Point (km))
 - 終点 (km) (End Point (km))
 - パルス幅 (マイクロ秒) (Pulse Width (microseconds))
 - 解像度 (m) (Resolution (m))
 - 測定時間 (s) (Measure Time (s))
 - ベースライン (Baseline) : デフォルトでは設定されていない
 - しきい値損失 (dB) (Threshold Loss (dB))
 - しきい値反射 (dB) (Threshold Reflection (dB))
 - 繰り返し (Recurrence) : デフォルトでは設定されていない

OTDR の測定範囲は、各セクターに定義された光ファイバ スパンに基づいて分類されます。OTDR 測定セクターは以下のとおりです。

- **ゾーン #1** : 距離 0 ~ 1 km

OTDR スキャンの繰り返しのプロビジョニング

- **ゾーン #2** : 距離 0 ~ 25 km
- **ゾーン #3** : 距離 0 ~ 80 km
- **ゾーン #4** : 全距離
- **エキスパート モード** : カスタム距離設定の場合は、始点パラメータと終点パラメータを編集できません。
- **自動モード (システム検出)** : 終点パラメータが自動的に定義されます。

(注) NCS1K デバイスの場合、[Expert Mode] と [Auto Mode (System Detect)] のみがサポートされます。

[設定 (Configure)] タブに表示されている距離プロファイルのパラメータは、30 秒ごとに更新されます。

ステップ 3 デバイスの OTDR 設定を変更するには、[デバイスの OTDR 設定 (Device OTDR Settings)] ハイパーリンクをクリックします。OTDR 設定の詳細については、[光インターフェイスのプロビジョニング](#)の「OTDR 自動スキャンの設定」を参照してください。

ステップ 4 セクターのパラメータを編集するには、テーブルで目的の距離プロファイルを選択して [編集 (Edit)] をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ポップアップ ウィンドウで、以下を実行できます。

- **ゾーン #1 ~ ゾーン #4** の場合は、[損失感度 (dB) (Loss Sensitivity (dB))]、[反射感度 (dB) (Reflection Sensitivity (dB))]、[しきい値損失 (dB) (Threshold Loss (dB))]、[しきい値反射 (dB) (Threshold Reflection (dB))]、および [繰り返し (Recurrence)] の値を編集できます。スキャンの繰り返しの設定については、[OTDR スキャンの繰り返しのプロビジョニング \(22 ページ\)](#) を参照してください。
- **エキスパートモード** の場合は、スキャンステータスとベースラインを除き、テーブル内のすべての列を編集できます。
- **自動モード** の場合は、[損失感度 (dB) (Loss Sensitivity (dB))]、[反射感度 (dB) (Reflection Sensitivity (dB))]、[しきい値損失 (dB) (Threshold Loss (dB))]、[しきい値反射 (dB) (Threshold Reflection (dB))]、および [繰り返し (Recurrence)] の値を編集できます。[終点 (End Point)] の値 (OTDR スキャンの光ファイバ スパンの長さ) は自動的に定義されます。スキャンの他の値 ([パルス幅 (Pulse Width)]、[測定時間 (Measure Time)]、[解像度 (Resolution)]) は、検出された光ファイバ スパンの長さに基づいて設定されます。

絶対しきい値を有効にするには、[OTDR 設定 (OTDR Settings)] ページで [絶対光ファイバパスの不合格基準 (Absolute Fiber Pass Fail Criteria)] チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

OTDR スキャンの繰り返しのプロビジョニング

選択したポートで OTDR スキャンの繰り返を設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [OTDR スキャン (OTDR Scan)] ページの [設定 (Configure)] タブで、[デバイス (Device)] ドロップダウンリストから、定期的なスキャンをプロビジョニングするポートを選択します。
- ステップ 2** 該当する距離プロファイルを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [繰り返し (Recurrence)] 領域で、次のいずれかを選択してスキャン頻度を設定します。
- [なし (None)] : 繰り返しは設定されない (デフォルト)。
 - [毎週 (Weekly)] : 毎週繰り返すスキャンをスケジュールするには、[ステップ 4 \(23 ページ\)](#) に進みます。
 - [間隔 (Intervals)] : 詳細に指定した定期的なスキャンをスケジュールするには、[ステップ 5 \(23 ページ\)](#) に進みます。
- ステップ 4** [曜日 (on)] ドロップダウンリストから希望する曜日を選択し、時間と分を入力します。
- ステップ 5** 0 ~ 365 の範囲で目的の日数を選択し、時間と分を入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

OTDR スキャン結果のエクスポート

スキャン結果をローカル マシンにエクスポートできます。

- ステップ 1** エクスポートファイルを作成するスキャンを選択します。
- ステップ 2** [Export Scans] アイコンをクリックします。
- エクスポートしたファイル (.sor 形式) がローカル マシンにダウンロードされます。
-

OTDR スキャンのインポート

スキャン結果をローカルからインポートできます。

- ステップ 1** [Import Scans] アイコンをクリックします。
- [Import Scan (.sor)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Browse] をクリックし、インポートする必要がある .sor ファイルを選択します。
- ステップ 3** ドロップダウンリストから [Distance Profile] を選択します。
- ステップ 4** 方向を示す目的の線をクリックして、[Scan Direction] を選択します。
- ステップ 5** [インポート (Import)] をクリックします。
-

Geo マップでの OTDR スキャン結果の表示

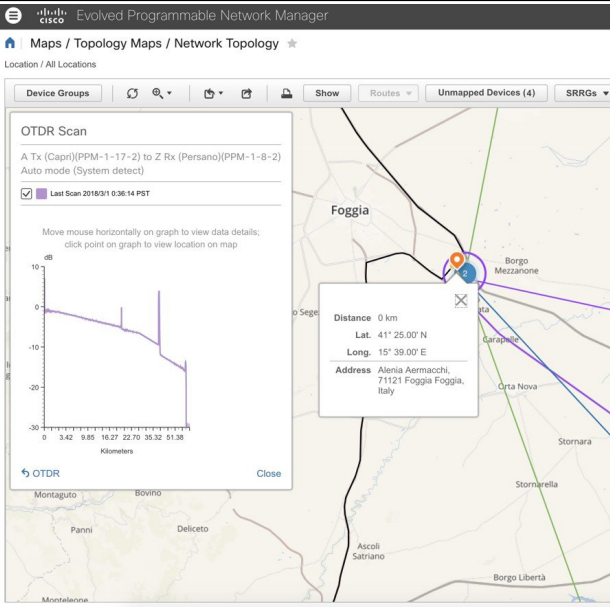
OTDR スキャン結果を Geo マップのコンテキストに表示して、問題が発生している光ファイバのロケーションを特定できます。たとえば、OTDR テストでリンク エンドポイントから 20 km の集中損失が報告された場合、その地理的な位置をマップ上で可視化できます。

前提条件：

- 光ファイバを Geo マップ上に表示するには、光ファイバデータと座標を含む KML ファイルをインポートする必要があります。を参照してください[KML ファイルからのロケーションデータのインポート](#)。
- OTDR スキャンを実行する OTS リンクが光ファイバに関連付けられている必要があります。光ファイバへの[リンクの関連付け](#)を参照してください。
- A 側デバイスと Z 側デバイスが Geo マップにマッピングされている必要があります。Geo マップへの[マップされていないデバイスの配置](#)を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	OTDR スキャンを起動します。	
ステップ 2	スキャンパラメータを定義してスキャンを実行します。	
ステップ 3	[Geoマップで表示 (View on Geo Map)] をクリックします。	Geo マップが開きます。OTDR スキャン結果のグラフが左側に表示されます。Geo マップがズームされ、関連するデバイス、リンク、および光ファイバ（紫色で強調表示）が表示されます。
ステップ 4	OTDR スキャン結果のグラフ内のポイントをクリックします。	Geo マップの光ファイバ上の正確な位置にロケーションアイコンが表示され、光ファイバに沿った距離 (km)、正確な座標、住所など、ロケーションに関する情報がポップアップパネルに表示されます。 (注) 正確なロケーションを計算できない場合、ロケーションアイコンは、正確なロケーションの特定の半径内に収まるおおよその位置を示します。ポップアップパネルに半径 (km) が表示され、マップ内のロケーションアイコンを囲む円が、正確なロケーションの半径内に収まるおおよその位置を示します。

	コマンドまたはアクション	目的
		
<p>ステップ 5</p>	<p>必要に応じて OTDR スキャン ページに戻るには、OTDR スキャン結果のグラフの下にある [OTDR] リンクをクリックします。</p>	

レポートを使用したネットワークパフォーマンスのモニタ

Cisco EPN Manager は、ネットワークのパフォーマンスをモニタするのに役立つさまざまなレポートを提供します。次に例を示します。

- 環境温度、CPU とメモリの使用率
- インターフェイス エラーと破棄
- キャリア イーサネット デバイスの場合：IPSLA イーサネット OAM、PWE3、QoS、およびその他の CE レポート
- 光デバイスの場合：イーサネット、OTN、SDH/SONET、およびその他の光レポート

パフォーマンスレポートを実行すると、データベースに保存されている履歴データが取得されます。レポートには、Cisco EPN Manager が収集するように設定されているデータ、つまりモニタリングポリシーを使用して収集およびモニタされるデータのみが表示されます。（イベントおよびアラーム関連のレポートではモニタリングポリシーを有効にする必要はありません。そのデータは自動的に収集されます。）さまざまなレポートに対してどのモニタリングポリシーを有効にする必要があるかについては、[使用可能なレポート](#)を参照してください。

